

## 医療の現場から ～治療トピックス～

## 変形性膝関節症に対する関節鏡治療

整形外科医長 川合 準



変形性膝関節症とは膝の軟骨がすり減って膝が変形する病気です。初期は立ち上がりや歩き始めに膝が痛む程度ですが、進行すると階段の上り下りが困難になったり、歩く時に常に痛みが出たり、膝の曲がりが悪くなって正座が出来なくなったりします。膝に水がたまって腫れることもあります。末期には外見上の変形が目立つようになり、膝の伸びも悪くなり、日常生活が困難になります。

治療は痛みをとることを目的として行われます。生活習慣の改善に加えて、湿布、鎮痛剤、関節注射等が行われます。しかしこれらの治療を行っても痛みの改善が思わしくない場合は、手術治療が勧められます。おおまかに言うと変形が強い場合は人工関節置換術、変形が比較的軽い場合は侵襲の少ない関節鏡手術を行います。どちらの手術を行うかは、主にレントゲンの変形の程度で決定します。(図1)



図1 レントゲン撮影で見る軽度の変形（関節の隙間が保たれています）

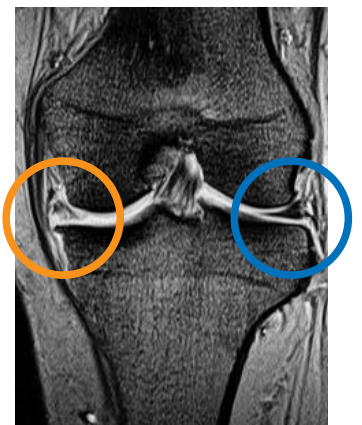


図2 MRI撮影による半月板の断裂  
 ○正常な半月板  
 ○変性断裂した半月板

関節鏡はカメラを用いた内視鏡手術の一つです。

あらかじめMRIを行い膝の中の状態を評価しておきます。(図2)

手術は下半身麻酔と全身麻酔を合わせた麻酔になります。膝のお皿の周りに約1cmの小切開を2～3個加えます。そこからカメラや手術器具を挿入して、関節内の処置（半月板部分切除、滑膜切除、洗浄等）を行います。手術翌日から歩くことが可能ですが、手術による腫れと痛みがしばらく続きます。術後にヒアルロン酸ナトリウムの関節注射や足底板を合わせて行うこともあります。入院期間はリハビリを含めて1～2週間程度です。関節鏡手術を行うと通常2～3ヶ月で痛みが楽になりますが、痛みの改善が思わしくない場合は人工関節置換術が必要となることもあります。

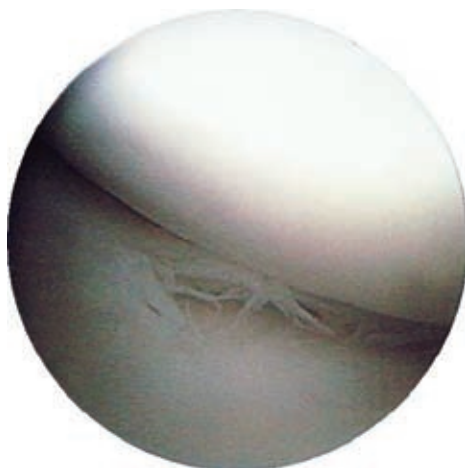


図3 関節鏡で見た半月板の断裂のようす

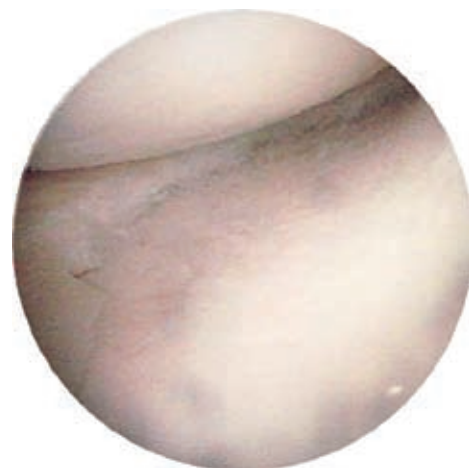


図4 関節鏡で見た半月板部分切除後のようす